

レクチャー 8.8

## enoco クリエイティブ・カフェ「西区発見！」vol.3

アメ村から西へ～日限萬里子を通してみる堀江

[トップ](#) >> [イベント](#) >> [enoco クリエイティブ・カフェ「西区発見！」vol.3「アメ村から西へ～日限萬里子を通してみる堀江」](#)

enocoが位置する江之子島は大阪市の西区にあります。かつて大阪府庁舎があったこの場所は、大阪の行政の中心地でした。そして安治川の河口につながる海の玄関口として、新しい文化やヒト・モノが集まり、近代大阪の発展を支えてきました。

戦後になって西区に張り巡らされていた堀川は埋め立てられ、まちの様相も大きく変化しましたが、現在も若者が集まる堀江や新町、緑溢れる靉公園、ディーブな下町・九条など、西区は多様な魅力や文化を発信する場であり続けています。特に近年は人口増加が著しく、とりわけ若い世代の流入が目立っています。一体、人は西区の何に惹かれて、集まってくるのでしょうか。

日本の各都市に数多くある「西区」のなかで、大阪市西区は最古の「西区」だそうです。その歴史ある西区に昨年新しく仲間入りしたenocoでは「とにかく西区のことをもっとよく知りたい」と、歴史から現在進行形のまちづくりまで、西区の資源や魅力を多彩なゲストで「発見！」する毎月1回・全7回（予定）のトークシリーズを開催します。

3回目の今回は堀江の街に大きな影響を与えた故・日限萬里子さんについて、晩年親交の深かった編集者・著述家の江弘毅さんをゲストに迎え話していただきます。

江さんが編集長をしていた『Meets Regional』では、日限萬里子さんの自伝コラム「ママいるう？」が45回にわたって連載（1997～2000）、別冊『日限萬里子と大阪ミナミの30年』（2002年12月）も編集しています。

高度成長期まで南堀江の立花通りは家具屋街として全国的に知られていましたが、時代の変化に伴い、1990年代には店舗の撤退などで寂しい街になっていました。そんな中、1998年、堀江公園を臨む場所にゆったりとお茶を飲むことのできるカフェ『ミュゼ大阪』をオープンさせたのが日限萬里子さん。倉庫街にアメリカ村を生み出した人として知られる方です。そして、これを契機として、周辺にはセレクトショップやカフェ、雑貨屋などが集まり、一大ファッションエリアへと変貌しました。

日時	2013年8月8日（木） 19:00～20:30
場所	地下1Fカフェ横スペース
ゲスト	江 弘毅（編集者・著述家/140B）
参加費	無料
定員	50名（当日先着順受付）

### ▼ 江 弘毅プロフィール

1958年、大阪は岸和田生まれの岸和田育ち。81年に神戸新聞マーケティングセンターに入社。88年、京阪神エルマガジン社に転じ『エルマガジン』別冊などを手がける。89年タウン情報誌「Meets Regional」創刊に関わり、12年間編集長を務めた。2006年、編集集団140Bを設立。ずば抜けた時代感覚と声のデカさで圧倒的な存在感を見せる。著書に『「街的」ということ』『岸和田だんじり祭若頭日記』『飲み食い世界一の大阪～そして神戸。なのにあなたは京都へゆくの』など。



※本シリーズは月1回のペースで開催し、全7回を予定しています。

サイトポリシー	> enocoについて	> クリエイティブルーム	> enocoのプロジェクト	<a href="#">Like 943</a> ツイート	
指定管理者	> フロアガイド	> サポーター募集	> enocoの学校		
バナー広告募集	> enocoのつかい方	> メールニュース登録	> 大阪府20世紀コレクション		
プレスリリース	> 空き状況	> Q&A	> ライブラリー		
	> アクセス	> お問い合わせ	> サポーターものづくりルーム		
		> プラットフォーム 形成支援事業			